

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果について I 正答数分布

## 学力調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、①市教育委員会は、児童・生徒の学力の定着状況及び教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教育行政施策に生かす、②各学校は、教育課程や指導方法等にかかわる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力向上を図る、③市教育委員会は、市民に対し、市の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求めるとともに、

### ◆現状・課題

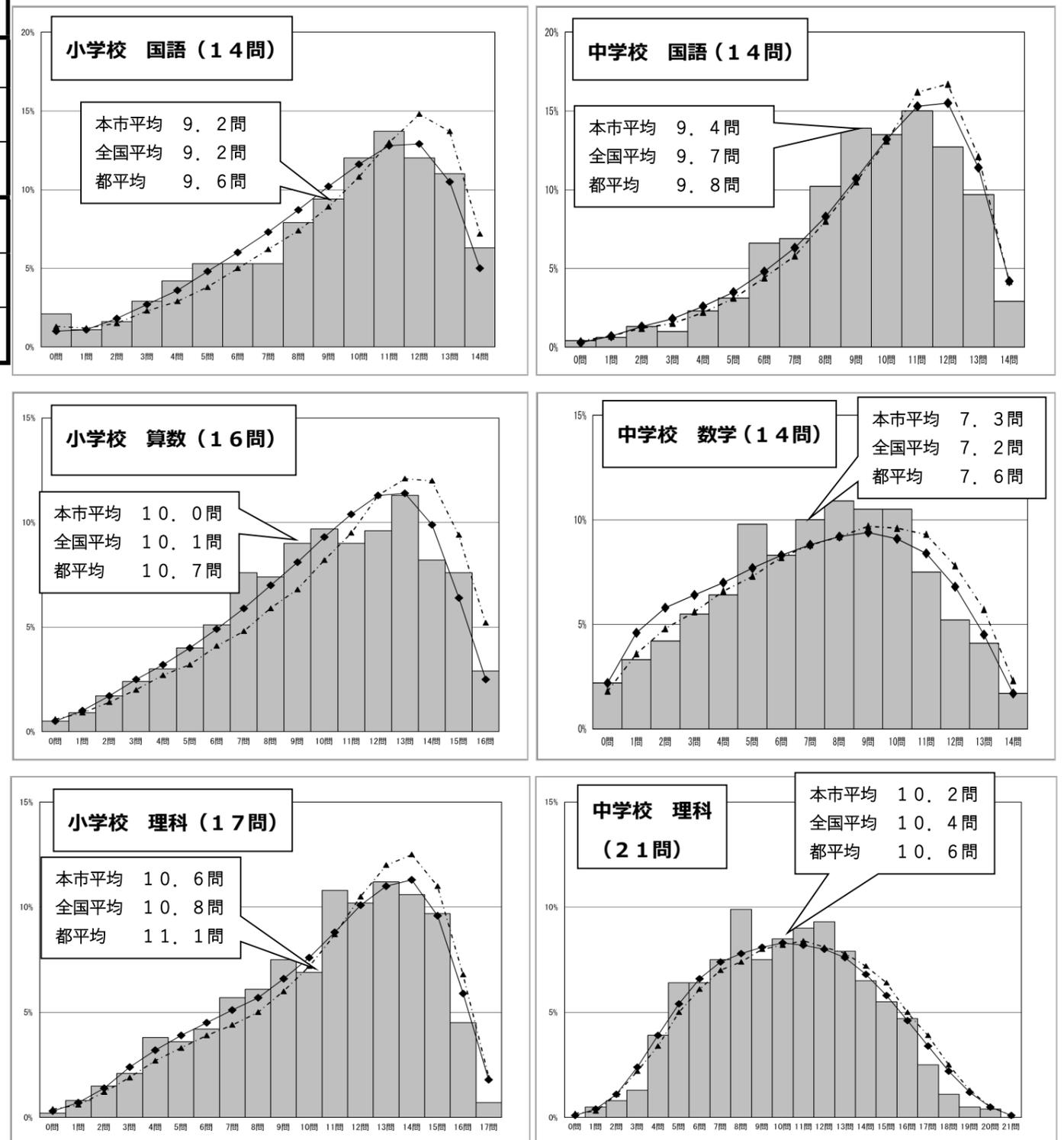
- 小・中学校ともに、全国の正答率とほぼ同等の結果であった。分布グラフで見ると、小・中学校ともに、全ての教科において、児童・生徒数の割合が高い正答数が、全国や都よりやや左側に寄っていることが分かる。
- 平均正答率は、小学校では国語、中学校では数学が全国平均を上回ったが、理科は小・中学校ともに全国平均を下回った。
- 四分位（全国）の分布では、小学校は国語、算数においてA層の割合が多いが、算数はD層も増加傾向である。中学校は、国語においてC,D層が増加し、数学ではA、B層が増加した。
- 理科は、平成30年度と比較すると、小学校はC層が減少しB層が増加し、中学校はA,B層が増加した。

### ◆平均正答率(%)

	教科	本市	全国	東京都
小学校	国語	66.0	65.6	69.0
	算数	63.0	63.2	67.0
	理科	62.0	63.3	65.0
中学校	国語	67.0	69.0	70.0
	数学	52.0	51.4	54.0
	理科	48.0	49.3	51.0

※四分位(全国)の各層は、全国の正答数の多い順に整理し、25%刻みで4つの層分けを行ったものであり、上位からA層、B層、C層、D層と呼称したものである。理科は、平成30年度以来の実施である。

### ◆正答数分布グラフ



### ◆四分位の正答数(全国)の分布(%)

